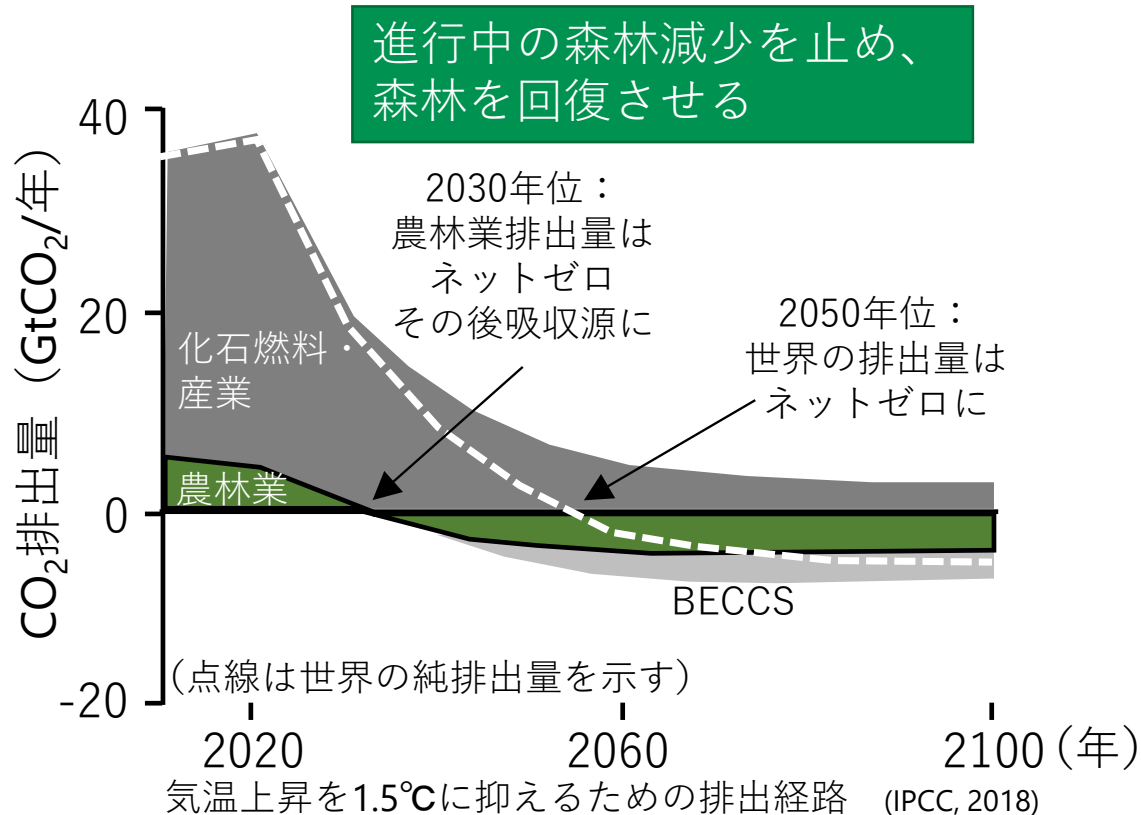


サプライチェーンの ネイチャーポジティブ化に向けた論点 (IGESの視点)

IGES 生物多様性と森林領域

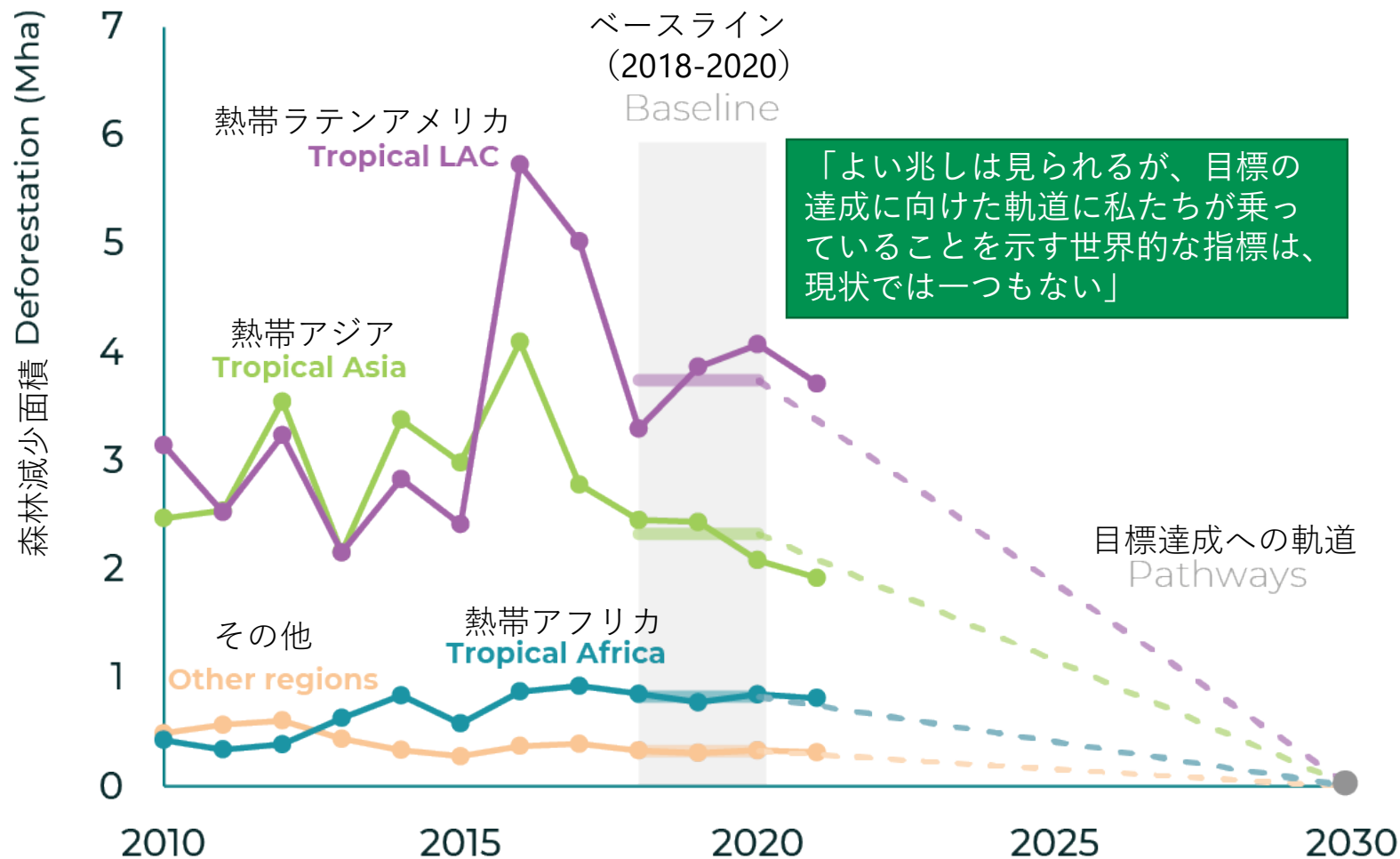
山ノ下麻木乃

気候変動目標達成には森林減少防止が不可欠



- 森林減少は大きなCO₂排出源
 - 森林減少は森林が長期に渡って蓄積してきた炭素を一気に放出する
 - 森林減少からの排出を止めなければ、パリ協定気候目標の達成は不可能
 - 現存する天然林はもう破壊するべきではない
- 森林・土地利用に関するグラスゴー・リーダーズ宣言：
 - UNFCCC COP26 (2021年) で、140以上の政府が、「2030年までに森林減少と土地劣化を食い止め、回復させること」を誓約。

森林減少は今も続いている



Forest Declaration Assessment Partners (2022)

森林減少の主な原因は、農地への転換

- 熱帯林を破壊して開拓された農地で生産された農作物の3-4割は商品作物として先進国で消費 (Curtis et al. 2018)



消費側の責任 (shared responsibility)

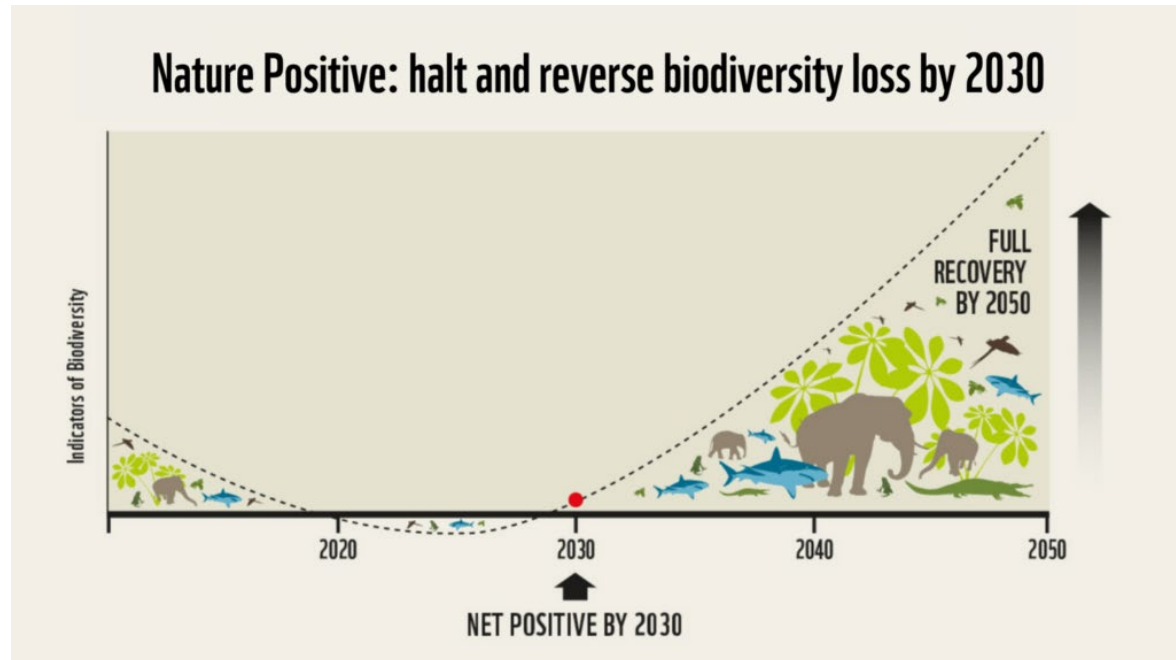
- 企業に求められる、サプライチェーン排出のアカウントティング、情報開示と削減
- カーボンクレジット購入による貢献

IGES

企業が真剣に森林減少問題に取り組むための決定打にかけていた？

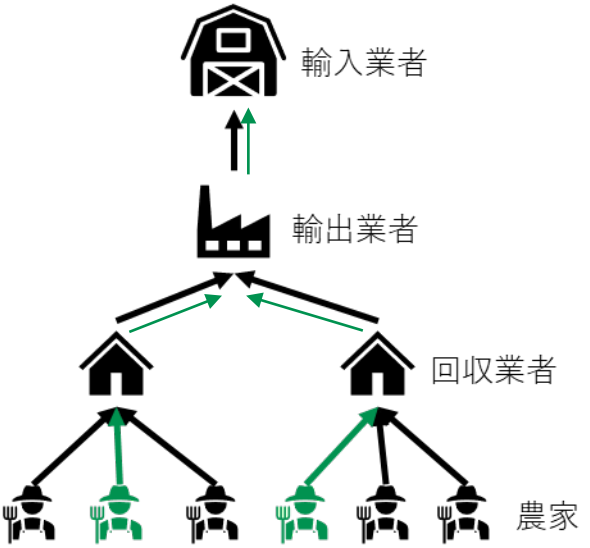
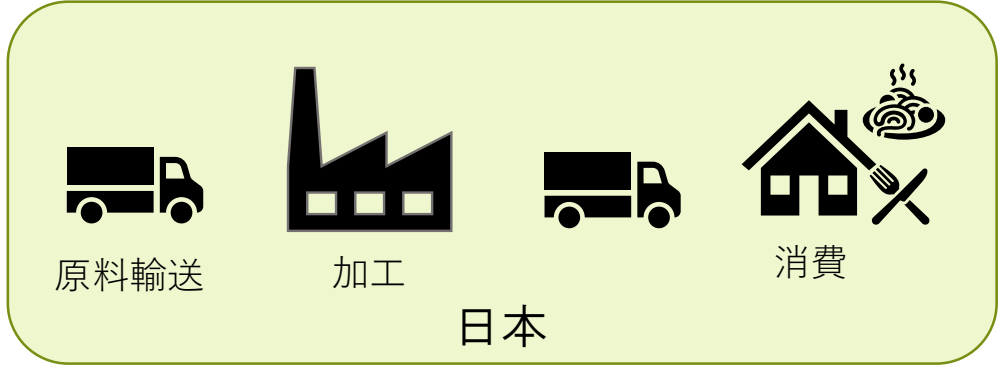
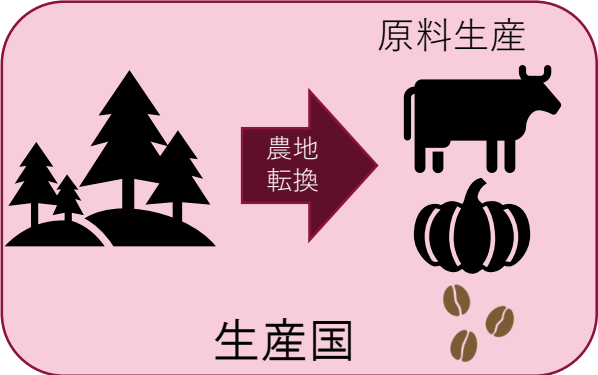
- 気候変動の議論で森林セクターはマイナー (エネルギー変革が最重要化課題)
- なぜ今、世界の森林減少防止に取り組まなければならないのか？森林減少はどこか遠くの国のできごと？
- どうやって農業セクターと森林セクターが協働できるのか？
- カーボンを重視すると、森林以外の土地利用、生態系が置き去り？

ネイチャーポジティブ情報開示からアクションへ



- 昆明・モンリオール生物多様性枠組（GBF）は、森林の気候目標「2030年までに森林減少を食い止め、回復させる」との整合性が取れている
- 森林だけにとどまらない「ネイチャー」を対象
- 企業の情報開示の要求（GBFターゲット15）
 - 自社のビジネス活動のカーボン（TCFD）＋ネイチャー（TNFD）への依存度（負荷）を「財務情報開示」が求められている
 - ネイチャーへの依存度を認識していない、対策ができていない企業は、金融市場での評価が下がる
 - **サプライチェーン**に基づく情報収集・分析・対策
 - 最上流（農地・自然破壊の現場）とビジネス活動のつながり明確化、影響・依存度を理解し情報開示
 - **情報開示からアクションへ**
 - ネガティブな問題が明らかになった場合、それを回避・軽減（ネイチャーポジティブのためのアクション）が求められる
- 政策的支援
 - ネイチャーポジティブ経済移行戦略
 - EUの法的規制：森林を破壊した農地で生産された農林産物の輸入禁止、事業者にデュー・デリジェンス（環境・人権（社会））を要求

サプライチェーンのトレーサビリティ



- 生産国のネイチャーへの影響に注目 **IGES**
 - 熱帯の天然林が農地に転換された場合、カーボンも生物多様性も甚大な影響
 - 現在進行中の問題
- サプライチェーンを明らかにすることは、遠くの生産国とのつながり（依存・責任）を明瞭化する
- サプライチェーンのトレーサビリティの確保はかなり大変
 - 原材料の生産国すらわからない場合もある
 - 多く小規模農家関わっている、中間業者が多い場合、など（アジアの典型）
- 粒度が高ければ高いほど、現地の課題を明らかにすることができ、具体的なネイチャーポジティブのアクションを起こせる
 - ガーナのカカオ生産地調査：外部からの支援（シェードツリー・児童労働防止）と現地のニーズ（病虫害対策、施肥）のミスマッチ **IGES**
 - しかし、細かければよい（農家の特定）というわけではないだろう

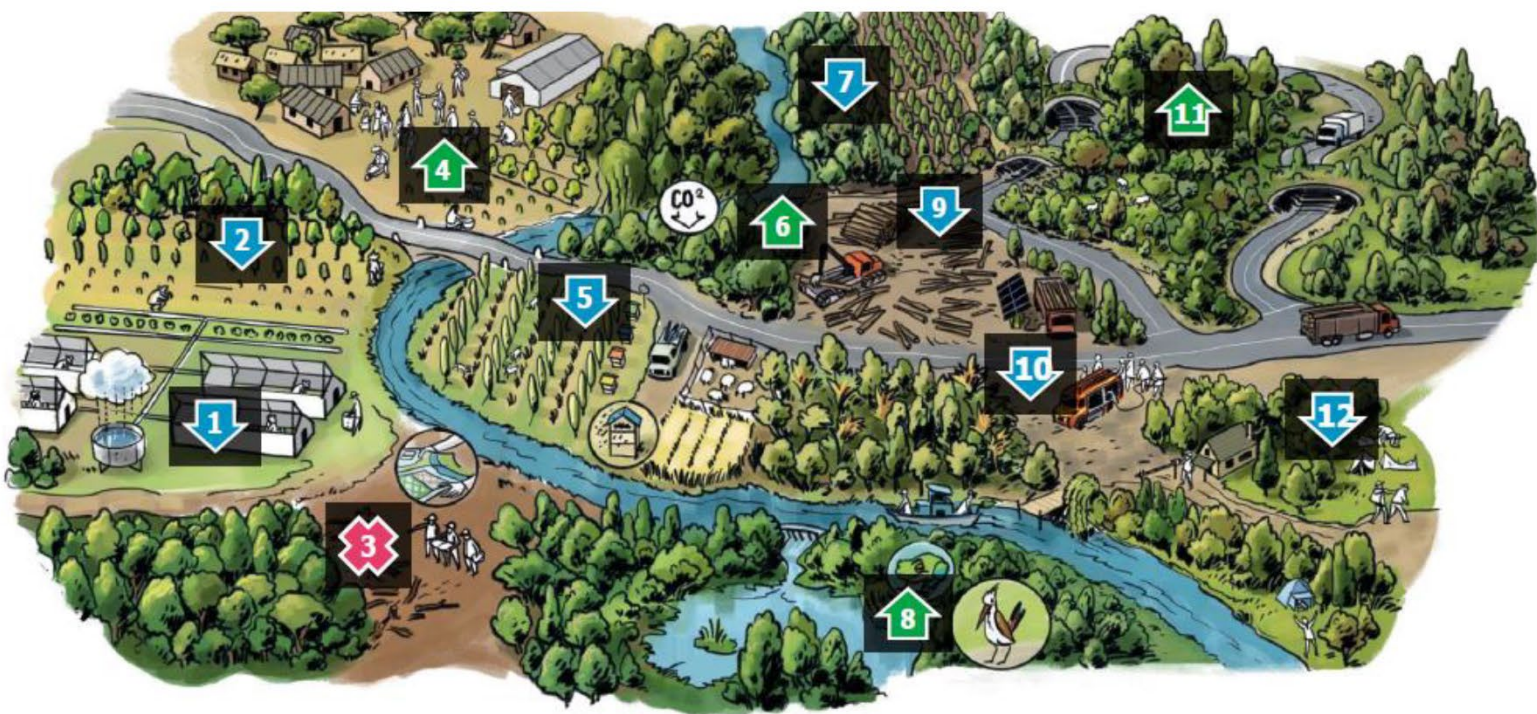
生産地におけるネイチャーポジティブのためのアクション

森林製品のライフサイクルに沿った自然配慮の取組み

持続可能な経済林（ワーキングフォレスト）で自然の損失を止め反転させるための行動

森林関連企業は、自社が管理し素材調達している森林においてサステナブルな森林経営を推進することでネイチャーポジティブに貢献します。伐採と植林の永続的なサイクルは、サーキュラーバイオエコノミーに再生可能な木材供給を担保し、同時に炭素除去、清浄水、生息地、経済生活など複数の便益を提供します。

- 自然への影響を回避するための行動
 - 森林を破壊しない
 - 森林を農地に転換しない
- 自然への影響を低減するための行動
 - 伐採に伴うCO2排出や生物多様性影響を低減
 - 有機農業や再生農業等の導入
- 自然の回復と再生のための行動
 - 生息地間の連携回復（コリドー）



IGES

このようなマップを描けるトレーサビリティの粒度が必要

▲ 自然への影響を回避するための行動
 ▼ 自然への影響を低減するための行動
 ▲ 自然の回復と再生のための行動

- | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|----------------------|---|--------------------------|--------------------------|-------------------|-------------------------------|-----------------------|--------------------------------|----------------------|--------------|----------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 森林や苗畑で水の使用量、廃棄物、汚染を削減する | 伐採後の再植林時は森林の多様性を保全する | 森林破壊を避け、生物多様性価値が著しく高い地域を過度な人工植林地に転換することを避ける | 気候条件に適合する在来種や絶滅危惧種を再導入する | 土地を最大限に活用することで、土地要求を低減する | 土壌と森林のカーボン除去を拡大する | 湖・池等の水塊、生物多様性や炭素価値の高いエリアを保全する | 生物多様性と炭素価値の高いエリアを復元する | 伐採に伴う二酸化炭素排出の削減と生物多様性への影響を低減する | 気候変動や外来種に関連する影響を低減する | 生息地間の連携を回復する | 密漁、違法伐採の発生を減らす |

持続可能な開発のための世界経済人会議

WBCSD 森林セクター ネイチャーポジティブに向けたロードマップ（2022） <https://sfc.jp/information/news/2022/2022-12-09.html>

認証制度はトレーサビリティ確保の強力なツール しかし・・・

- 「認証製品への切り替え」で対応したくなる

- サステイナブルな生産に関するガイドラインがあり検証される
- 証明書もついてくる



- ベトナムのコーヒー産地の農家の認証取得率は10%

- 認証された作物をめぐる競争？

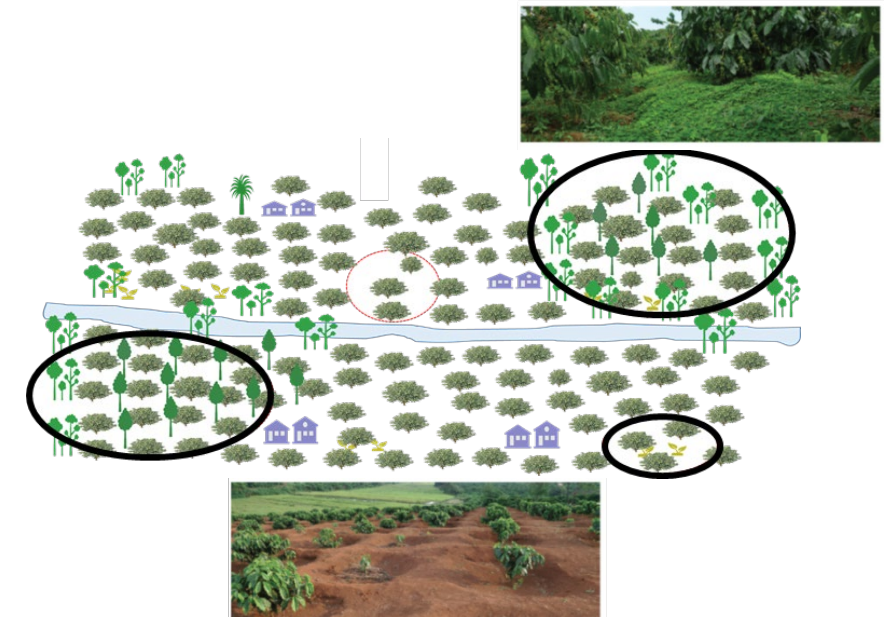
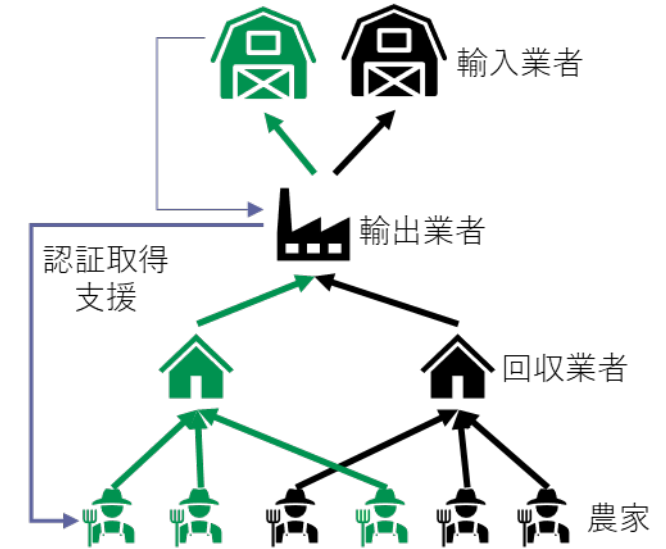
- 生産地全体のネイチャーポジティブを目指す必要がある

- ランドスケープ・エンゲージメント (= 前述のマップ)
- ステークホルダーとの協働 (農家、現地政府、現地企業、現地NGO、他の輸入事業者)

- 生産地 (農家) の現状と課題を最大限に考慮する必要性

- 選ばれた優良農家が認証を受けており、より課題を抱える農家は改善の機会もなく、サプライチェーンから排除されてしまうリスク
- ベトナムコーヒー生産地調査：トレーニングを受けサステイナブルな農法を取り入れた農家の生産コストを上昇させ、負担となっていた
- SDGs (持続可能な開発目標) の視点

IGES



IGESの視点

- 企業にとっての明確な理由：TNFD（自然関連財務情報開示）やTCFD（気候関連財務情報開示）によって、ネイチャーポジティブ活動が金融機関や投資家の判断（企業価値）に影響する
- ディスクロージャー（情報開示）とそのための情報収集と分析は企業のネイチャーへの依存度を明確にするが、**重要なのはそれを踏まえたネイチャーポジティブのためのアクション**
- 「ネイチャーポジティブ」によって、気候変動問題の観点からの森林保全だけでなく、その他の重要な「ネイチャー」にまで対象が拡大
 - ゼロからのスタートではなく、これまでの森林保全活動から学べることもある
 - 「ネイチャー（カーボン）」だけでなく、**生産地のコミュニティや農家の持続可能な開発（SDGs）、ウェルビーイングも同様に考慮する**。生産地のネイチャーポジティブのアクションを実際に実施するのは現地の農家
 - 今ある自然を保全すること、今自然に与えているネガティブなインパクトをなくす・低減させることが最優先